



はしがき

このテキストは、海外の動きも射程に入れながら、編者・執筆者の間で、人工知能が席卷するかにみえる今の時代にふさわしい日本の図書館情報学のあり方を模索したものです。この初学者、一般市民向けのテキストには、2つの願いがあります。第1は、日本の図書館の現状、課題、試みられている主体的な実践を通して、読者に図書館と図書館サービスの基礎知識を知ってもらい、自分自身で考えてもらうことです。第2には、読者が各章のトピックを通して、生涯学習者として主体的に生きていくためのヒントを得られるようなテキストとなることです。これらの願いを実現すべく、それぞれの章では、3つの工夫をしました。

□ ① 3部構成の領域

本書の読者は、図書館に興味をもっている人たちや、図書館員になりたい、あるいは、資格取得のため司書課程を受講したいという人を対象としています。そのため、初学者向けであることを前提として、「**図書館概論**」のテキストにも対応できるように構成を工夫しました。

本書は**3部構成**です。「第Ⅰ部 図書館の役割と機能」(図書館の基礎知識編)、「第Ⅱ部 苦悩する市民社会と図書館——図書館は挑戦する」(図書館の現状や実践編)、「第Ⅲ部 未来社会に貢献する図書館——生活の充実・再建ならびに産業の再編・高度化を展望す

る」(今後の図書館が担える役割編)と、基礎から発展という段階構成にしています。

□▷ ② 15の主題とコラム

3部構成は15章からなり、各章を**1主題**として、**現状**、**課題**、そして、**図書館員による具体的な実践**を紹介しています。また、**コラム**には現場の図書館員も含めて、各執筆者らが**図書館の背景事情**を具体的に紹介しています。

読者の興味に応じて、それぞれの章を読んでいただきながら、**図書館の現状**、**図書館の正義**、**図書館の摂理(法則)**を考えるものであってほしいと思います。そして、読者が**生涯学習者**として生きていくための**ヒント**にもなれば幸いです。

□▷ ③ 専門用語を探す索引つき

図書館の**基礎知識**を担保すべく、専門用語を探す**索引**を9ページにわたってつけています。この本を手にとった方が図書館に関心を寄せ、興味をもってこれから図書館に関わっていけることを切に願います。

この本の中身と体裁を精巧な知的生産物商品としてくださった有斐閣書籍編集第2部の中村さやかさんには、編者一同、深く感謝しています。ありがとうございました。

2025年4月吉日

編者一同
山本 順一
前川 和子
松戸 宏予

執筆者紹介 *は編者

川戸 理恵子 (かわと りえこ)	担当 1章1~3節
鹿児島女子短期大学 准教授	
山田 美幸 (やまだ みゆき) 熊本学園大学 講師	担当 1章4節
田嶋 知宏 (たじま ちひろ) 常磐大学 准教授	担当 2章
山口 真也 (やまぐち しんや) 沖縄国際大学 教授	担当 3章
田中 伸樹 (たなか のぶき) 相愛大学 講師	担当 4章
竹之内 禎 (たけのうち ただし) 東海大学 准教授	担当 5章
深水 浩司 (ふかみ こうじ) 大妻女子大学 常勤特任教授	担当 6章
石井 大輔 (いしい だいすけ) 聖徳大学 准教授	担当 7章
坂本 俊 (さかもと しゅん) 聖徳大学 講師	担当 8章
立花 明彦 (たちばな あけひこ) 日本点字図書館 館長	担当 9章
*松戸 宏予 (まつど ひろよ) 佛教大学 教授	担当 10章1~3節
渡辺 志津子 (わたなべ しづこ) 埼玉大学 助教	担当 10章4節
家禰 淳一 (やね じゅんいち) 愛知大学 教授	担当 11章
千 錫烈 (せん すげつ) 関東学院大学 教授	担当 12章
中山 愛理 (なかやま まなり)	担当 13章
大妻女子大学短期大学部 准教授	
望月 道浩 (もちづき みちひろ) 琉球大学 教授	担当 14章
橋本 磨美 (はしもと まろみ)	担当 補章1節
前 川村学園女子大学 講師	
윤 유라 (ゆん ゆら) 東義大学校 (韓国) 教授	担当 補章2節
増田 和子 (ますだ かずこ) 大正大学 講師	担当 コラム1
*前川 和子 (まえかわ かずこ)	担当 コラム2
前 大手前大学教授, 図書館を学ぶ相互講座 代表	

西河内 靖泰 (にしごうち やすひろ)	担当	コラム 3
広島女学院大学 非常勤講師, 前 日本図書館協会図書館の自由委員会 委員長		
榎本 裕希子 (えのもと ゆきこ)	担当	コラム 4
明星大学 兼任講師		
山中 康行 (やまなか やすゆき)	担当	コラム 5
前 京都女子大学 教授		
吉本 龍司 (よしもと りゅうじ)	担当	コラム 6
株式会社カーリル 代表取締役・エンジニア		
*山本 順一 (やまもと じゅんいち)	担当	コラム 7
フリーランスの研究者・著述家		
糸川 唯 (いとかわ ゆい)	担当	コラム 8
沖田 克夫 (おきた かつお)	担当	コラム 9
NPO 法人 読み継ぐ書物のアクセシブル図書館 (accessLib) 理事長		
村上 郷子 (むらかみ きょうこ)	担当	コラム 10
法政大学 兼任講師		
橋本 あかり (はしもと あかり)	担当	コラム 11
桃山学院大学 講師		
山本 慎一 (やまもと しんいち)	担当	コラム 12
岩波書店ジュニア新書編集部 編集委員		
中戸川 陽子 (なかとがわ ようこ)	担当	コラム 13
相模女子大学 大学事務部		
加藤 信哉 (かとう しんや)	担当	コラム 14
前 国際教養大学 特任教授・図書館長		
豊田 恭子 (とよだ きょうこ)	担当	コラム 15
東京農業大学 教授		

目 次

はしがき	i
執筆者紹介	iii
Information	v

第 I 部 図書館の役割と機能

第 1 章 社会のなかの図書館・図書館員	3
1 図書館情報学へようこそ	4
図書館情報学とは (4) 図書館とは (5)	
2 図書館員がもつ情熱と抱える苦悩	6
現代社会と図書館員の業務 (6) 図書館員が直面している現実 (7)	
非正規雇用の現状 (10) 図書館を通じた“資産投資” (11)	
3 多様化する公共図書館の運営スタイル	12
公共図書館を管理するのは誰か (12) なぜ指定管理者制度を導入する のか (13) アメリカで公共図書館を管理するのは誰か (15)	
4 誰のための図書館か	16

第 2 章	図書館の機能	21
	コミュニティの情報・知識と交流の拠点	
1	図書館にはどのような種類があるか	22
	図書館とはどういう存在だろうか (22) 5つのタイプの図書館 (23)	
2	公共図書館はいつ頃できたのだろうか	25
	古代にあった公共図書館 (25) 近世の公共図書館 (26) 今につながる公共図書館の成立 (28) 日本の公共図書館はいつから整備されたのか (30) 公共図書館の位置づけの変化と現在 (31)	
3	コミュニティの民主化と図書館	32
	日常生活における情報・知識の入手と公共図書館 (32) 人と人とを結びつける公共図書館 (35)	
第 3 章	知的自由と図書館	37
	「図書館の自由」と「デジタル・プライバシー」の保護	
1	「知る自由」(知的自由)をどう捉えるか	39
	検閲への反対	
	文部科学省からの要請 (39) 国民主権と民主主義 (40) 基本的人権の保障要件 (41)	
2	「自由」をどう守るか	42
	資料収集の自由・資料提供の自由	
	戦争と図書館の自由 (42) 誤りをどう正すか (44)	
3	デジタルネットワーク時代の図書館の自由	47
	秘密を守る	
	その個人情報が必要か (47) 個人情報は利活用すべき? (49) 個人情報と非個人情報 (51) 図書館の「憲法」? (52)	

第 4 章	情報の今日的意味	55
	知識を継承し、イノベーションを生み、AI を育てる情報	
1	現代社会にあふれる情報	56
	図書館が扱う‘情報’というもの (56) フェイクニュースと 3 つの information (58) 図書館はどうすべきか (59)	
2	情報を扱い続ける図書館	60
	蓄積され、失われる情報 (60) ウェブ上の情報はなくなるのか (61) 図書館はどのような場所か (62)	
3	これからの情報と図書館	63
	情報をつくりだす AI (63) イノベーションのために必要なもの (66) 図書館の意義は変化するか (67)	
第 5 章	図書館の情報組織化	69
	アナログ文献とデジタルコンテンツの組織化と利用	
1	情報を組織化するとはどういうことか	70
2	情報組織化の 3 つの方法	71
	検索に備えて書誌データを作成・登録する目録法 (71) テーマから情報資源を検索する手がかりを与える件名法 (74) 現物にアクセスする仕組みをつくる分類法 (76)	
3	メタデータと書誌コントロール	79
	メタデータ (79) 書誌コントロール (80)	
第 6 章	IT 技術の社会普及を担う図書館	85
	利用者の新たな体験を生む IT 技術	
1	図書館でのものづくり	86
	ライブラリー・メイカースペース	

	ライブラリー・メイカースペースとは (86) STEM 教育との関係 (87) 日本における可能性を考える (88)	
2	利用者と図書館員の利便性を向上させる技術	90
	パブリックサービスやテクニカルサービスにおける利便性 (90)	
	RFID とは (91)	
3	メタデータのハーベスティングによる 所蔵情報データベースの統合化	92
	図書館所蔵資料の横断検索と統合検索 (92) メタデータとハーベス ティングによるデータ取得の自動化 (93) 国内における先進的事例 (94)	
4	図書館で利用可能な AI の可能性	95
	AI の略史と基本技術 (95) IFLA 作業文書に見る図書館の戦略的対 応 (96)	
第 7 章	著作権ビジネスと図書館	101
	グローバル経済と企業社会の変容	
1	著作権をめぐる日米の法制度	102
	著作権とは何か (102) 著作権法を含む知的財産権制度の構造矛盾 (103) 財産権の 1 つである著作権とその権利制限 (105) アメリカ 合衆国憲法に定める特許・著作権 (106)	
2	著作権制度における図書館等の特権的位置づけ	107
	図書館の特権 (107) 図書館における権利制限規定 (108) 図書館 での複製物の送信に補償金制度が導入された (108) 図書館での複 製サービスは著作権の侵害行為なのか (110)	
3	TEACH Act と授業目的公衆送信補償金制度	111
	遠隔教育に対応するアメリカの TEACH Act (111) 日本におけるオン ライン遠隔教育 (112) 著作権ビジネスと権利強化、そして懸念され る教育格差の広がりに (115)	

第Ⅱ部 苦悩する市民社会と図書館 図書館は挑戦する

第8章 格差に挑む図書館 119 拡大する貧困と図書館の役割

1 ‘みんなの図書館’の実態 120 図書館利用者の実像

「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言 2022」に見る公共図書館像 (120)
日本での図書館利用と利用者ニーズ (121) アメリカにおける図書館
利用と利用者ニーズ (123)

2 公共図書館に居場所を求めて 124 社会的インフラとしての公共図書館 (124) 子どもの居場所としての 公共図書館 (125) ゲームを用いた世代を超えた交流活動 (126) シェルターハウスとしての公共図書館 (129)

3 図書館の多文化サービスの実態 130 多様性と包摂性に基づく公共図書館サービス (130) IFLA/UNESCO 多文化図書館宣言 (131) 日本における多文化サービスの実態 (131)

第9章 マイノリティのための図書館 135 あらゆる人々の生活を支援する

1 国連障害者権利委員会の日本政府への勧告 137 障害者権利条約：障害者とは誰か (137) 総括所見：障害のある人 を特別視してきた施策を批判 (137)

2 ボディとメンタルに障害のある人たちの障害緩和と 図書館サービス 139 責任を放棄した公共図書館 (139) 障害者サービス元年 (1970 年) (140) 「障害者サービス」から「図書館利用に障害のある人への

サービス」へ(141) 図書館が抱える4つのバリア(142) 心理的な
圧迫となるバリア：筆者の体験から(143)

3 技術革新と法律の整備 144

デジタル化によって生まれたサピエ図書館(144) 読書バリアフリー
法と関係団体の動向(145)

第10章 次世代市民の育成・教育を担う図書館 151

図書館利用者教育に着目して

1 社会と図書館利用者教育 152

デジタル社会とデジタル・シティズンシップ(152) メディア情報リテ
ラシー獲得を支援する図書館利用者教育(153)

2 学校図書館と図書館利用者教育の現状 154

学習支援に対するジレンマ

学校図書館の役割(154) 探究学習に対する学校司書の支援の現状
(158)

3 学校図書館支援のあり方 159

図書館の学習支援(160) 学校図書館担当者の役割(163)

4 大学学部 of 学術情報利用者教育の試み 164

初年次必修科目としての情報リテラシースキル教育(164) 大学図書
館や学部資料室などを使い倒しながらの講義(165)

第 III 部 未来社会に貢献する図書館

生活の充実・再建ならびに産業の再編・高度化を展望する

第 11 章 キャリア支援／ビジネスと図書館 …………… 171

就職・転職／起業を支援する

1 ホームレスと図書館 …………… 172

一敗地にまみれて立ち上がる

アメリカの公共図書館におけるホームレス支援の実例と効果 (173)

2 就職・転職を支援する図書館 …………… 174

公共図書館の就職支援プログラム (175) ネクタイやフォーマルウェアの貸出 (176) 日本の公共図書館におけるビジネス支援 (177) 就職・転職に役立つ資格取得のためのサービス (180) 公共図書館の就職支援がアメリカ経済に及ぼす影響 (180) 公共図書館におけるビジネス支援サービスの日米の比較 (181)

3 さまざまな働き方を支える図書館 …………… 181

労働収入の組織依存とそのリスク (182) 組織に所属しない働き方とそのリスク (182) スタートアップ向けのスモールビジネス講座 (183) ニューヨーク公共図書館におけるビジネス講座・ビジネスリサーチ (184)

第 12 章 フィナンシャル・リテラシーと図書館 …………… 187

図書館が育む経済力

1 情報格差と金融不安の時代に …………… 188

所得は上がらず、負担は増える (188) 消費者と企業・金融機関における情報格差 (189) リーマン・ショックとサブプライム・ローン (189) 老後 2000 万円問題と「貯蓄から投資へ」 (190)

2 消費者市民のためのフィナンシャル・リテラシー …………… 192

フィナンシャル・リテラシー (192) フィナンシャル・リテラシーの内容
(192) 日本のフィナンシャル・リテラシーの現状と成人前教育の必
要性 (193)

3 図書館でのフィナンシャル・リテラシーサービス 194

図書館で行うフィナンシャル・リテラシー教育の意義 (194) アメリカ
での公共図書館におけるフィナンシャル・リテラシーサービスの展開
(195) アメリカ図書館協会のフィナンシャル・リテラシーガイドライン
(195) ニューヨーク公共図書館 (196) インディアナポリス公共図書
館 (197) 日本の公共図書館でのフィナンシャル・リテラシーサービス
(197) フィナンシャル・リテラシー教育の課題 (198) フィナンシ
ャル・リテラシーサービスを行うための図書館員の資質 (199)

第 13 章 メディカル／ヘルス・リテラシーと図書館 203

自分と家族の健康の自己管理

1 健康を自己管理する図書館利用者 204

健康・医療情報へのアクセス (205) 日本の公共図書館における健
康・医療情報サービス (205) アメリカにおける医療アクセスと健
康・医療情報ニーズ (207)

2 図書館利用者の健康への配慮 208

ライブラリー・ナース

アリゾナ州ピマ・カウンティ公共図書館の課題とサービス (209) オ
ンライン診療の機器と空間の提供：図書館オンライン診療支援サービス
(211) 日本の公共図書館で活動する看護師 (213)

3 図書館利用者のメンタル・ヘルスに関するサービス 213

リラックスできる空間としての図書館 (213) 公共図書館における健
康・医療情報提供サービスの特徴 (216)

第 14 章 イノベーションと図書館 219
外部効果と呼ぶ基礎科学の振興

1 日本の学術活動の長期低迷・低落といくつかの原因 220
日本の学術活動の現状

アメリカや中国との違い (222) アメリカの DARPA と日本の研究補助金の比較から (222) 日本の学術活動低迷の原因は (223)

2 研究をサポートする大学図書館と
アカデミック・ライブラリアン 224
ヒューストン大学 (228) ミネソタ大学 (229)

3 外部効果と呼ぶための図書館におけるイノベーション 230
イノベーションとは何か (231) 公共図書館におけるイノベーション
(232)

補章 アメリカ・韓国の図書館政策 235

1 アメリカの図書館政策 236
なぜ、日本の図書館情報学のテキストで「アメリカの図書館政策」を
学ぶのか (236) アメリカでは「図書館政策」をどのように学ぶのか
(238) アメリカ連邦政府の図書館政策 (239) まとめ：政策とサー
ビスを循環させる (245)

2 韓国の図書館政策 246
図書館法の推移と行政機関の変化 (246) 韓国の図書館政策の推移
(248)

引用・参考文献 255
索引 266

コラム 一覧

- 1 グローバルに司書資格の学びを活かそう (8)
- 2 図書館で働くということ：あるキャリアの記 (33)
- 3 再びの惨事を回避するには，“知る”ことが先決 (45)
- 4 図書館が拓く、人と AI の未来のつながり (64)
- 5 半世紀前の大学図書館では膨大なカード目録の作業はプロしかできなかった (82)
- 6 自由につながる図書館へ：AI 時代のサービスとは (97)
- 7 学会に予想もしなかったオカネが入った?! (113)
- 8 非正規司書の声を聞いてほしい (127)
- 9 スマートな ebook 端末アプリが欲しい (146)
- 10 ユネスコのメディア情報リテラシー推進プログラム (155)
- 11 日本の図書館にも DX 能力と UX 重視が望まれる (178)
- 12 広がるシェア型図書館 (200)
- 13 図書館がなくなる?! 図書館でお泊り会?! (214)
- 14 近未来の大学図書館：デジタル・ライブラリー (225)
- 15 アメリカに見る市民による図書館づくり (242)

社会のなかの 図書館・図書館員

第

1

Chapter
章

Quiz クイズ

- Q1.1** 公共図書館数の経年変化について、2003 年と 2023 年の比較をした場合に正しいのはどれか。
- a. 2003 年 2759 館／2023 年 3310 館
 - b. 2003 年 3248 館／2023 年 3310 館
 - c. 2003 年 3310 館／2023 年 2759 館
- Q1.2** 公共図書館全体における資料費予算額の経年変化について、2003 年と 2023 年の比較をした場合に正しいのはどれか。
- a. 2003 年 285 億 4867 万円／2023 年 324 億 8000 万円
 - b. 2003 年 285 億 4867 万円／2023 年 279 億 3171 万円
 - c. 2003 年 324 億 8000 万円／2023 年 285 億 4867 万円

Outline 本章で学ぶこと

- ・技術革新による変革を迎えた現代社会において、地域社会に根ざす図書館および図書館員がどのような境遇におかれるかを確認しよう。
- ・多様化する公共図書館の管理運営について、地方公共団体による管理運営の他にどのような方法が選択されているか確認しよう。
- ・時代と地域社会の変化をふまえて発展する公共図書館が、どうすれば利用者にとってよりよい図書館となりうるのかについて考えよう。

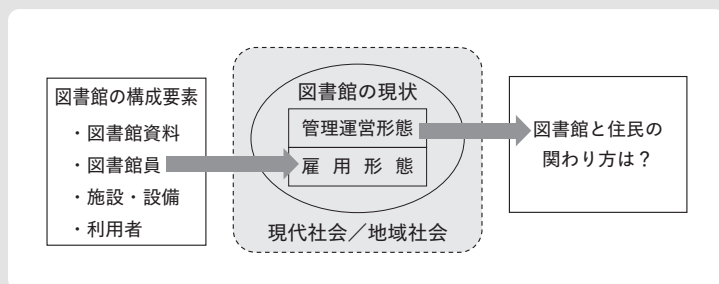
Answer クイズの答え

Q1.1 a. 2003 年 2759 館／2023 年 3310 館

Q1.2 c. 2003 年 324 億 8000 万円／2023 年 285 億 4867 万円

(いずれも日本図書館協会の調査に基づく)

Chapter structure 本章の構成



1

図書館情報学へようこそ

図書館情報学とは

あなたは「図書館」という言葉から何を思い浮かべるだろうか。建物、モノ、サービス、人、形容する言葉など、自身の利用経験の有無にかかわらず何らかのイメージをあげることができただろうか。思い浮かべられた多くは、図書館を表す表現としておそらく当てはまる。しかしまた、それは図書館がもつ一側面を表すに過ぎない。図書館について知ろうと本書を手にした読者は、図書館情報学という学問にふれ、そのカバーする領域の広さにきっと驚くだろう。図

IT 技術の社会普及を 担う図書館

第

6

章

利用者の新たな体験を生む IT 技術

Quiz クイズ

- Q6.1** 2024 年に公共図書館（日本国内に限らない）実際に展開していたサービスを、以下の選択肢からすべて選びなさい。
- a. 3D プリンタの提供 b. ドレス縫製用ミシンの提供
c. ポッドキャストの収録 d. テレビゲームの提供
- Q6.2** 電子図書館の概念が提示されて久しいが、国内外を問わず、紙の本をまったく所蔵していない電子図書館はあるか。以下のうち正しいものを 1 つ選びなさい。
- a. 紙の本をまったく所蔵していない電子図書館は存在しない
b. 大学図書館にはあるが、公共図書館には存在しない
c. 大学図書館にはないが、公共図書館には存在する
d. 大学図書館にも公共図書館にも存在する

Outline 本章で学ぶこと

- ・ IT (ICT) を用いた図書館サービスについて、提示されたトピックから理解を深める。
- ・ 図書館でのものづくり（ライブラリー・メイカースペース）について考え、日本での実現可能性を探る。
- ・ RFID 技術による利便性、ハーベスティングによる図書館所蔵データベースの統合による検索チャネルのワンストップ化を学ぶ。
- ・ 図書館での AI 利用について、基礎的技術と利用可能性を考察する。

Answer クイズの答え

Q6.1 a.～d. すべて

Q6.2 d.

Chapter structure 本章の構成



1

図書館でのものづくり

ライブラリー・メイカースペース

ライブラリー・メイカースペースとは

2024 年現在、欧米各国の多くの公共図書館では、3D プリンタ等を無料で利用できるものづくりスペース（ライブラリー・メイカースペース）の新設が増えている。

図書館におけるものづくりの歴史は古く、裁縫やキルティングなどの手芸を主とするサークルから発展した。1873 年よりニューヨーク州ゴワンダ婦人社交協会は、キルトや裁縫とともに社交や本に関する語らいを目的として活動していたが、1887 年婦人図書館

格差に挑む図書館

拡大する貧困と図書館の役割

第

8

章

Quiz クイズ

Q8.1 滞在型複合施設として 2011 年に開館した「ひと・まち・情報 創造館武蔵野プレイス」は 4 つの機能を備えているとされている。1 つは武蔵野市の①公共図書館としての機能であり、これに加えて、②生涯学習支援機能、③市民活動支援機能がある。それでは残りの機能はどんな機能であろうか。

- a. 子育て支援機能 b. 健康生活支援機能
- c. 青少年活動支援機能

Q8.2 アメリカの公共図書館を題材とした映画である『パブリック図書館の奇跡』(原題: *The Public*) において、公共図書館を占拠したホームレスたちの要求とはどのようなものであったのか。

- a. 大寒波をしのぐための宿泊許可
- b. 日銭を稼げるような仕事斡旋
- c. 長く滞在できるよう開館時間の延長

Outline 本章で学ぶこと

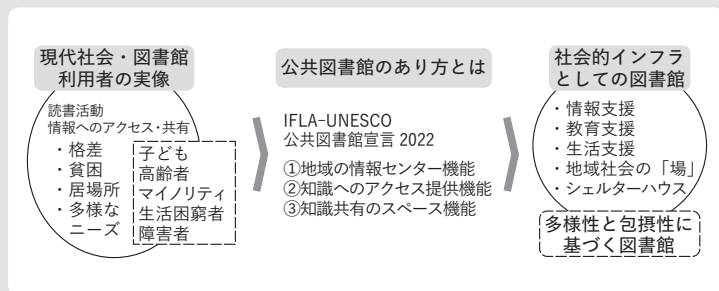
- ・ 図書館利用の実像として、19 世紀にそのイメージが確立して以降、市民社会における情報源として利用されてきた公共図書館が抱えている問題、課題について学ぶ。
- ・ 多文化・共生社会において、地域社会・コミュニティのハブとして利用者ニーズに基づくサービス活動を実現していくために、公共図書館に求められる要素について考える。

Answer クイズの答え

Q8.1 c. 青少年活動支援機能

Q8.2 a. 大寒波をしのぐための宿泊許可

Chapter structure 本章の構成



1

‘みんなの図書館’の実態 図書館利用者の実像

「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言 2022」に見る公共図書館像

現代社会における**公共図書館**のあり方を示す指針として、1949年に「**ユネスコ公共図書館宣言**」が公表された。この宣言は1972年、1994年、2022年とこれまで3度の改訂がなされており、改訂の都度、その時代において公共図書館として求められる要素が宣言文に加えられている。その経緯をふまえれば、この宣言文の変遷を通して、国際社会が公共図書館に対してその時代精神に見合ったどのような図書館像および図書館サービスを要請してきたかを一定程度うかがい知ることができる。2022年に公表された最新版の宣言では、

マイノリティのための 図書館

あらゆる人々の生活を支援する

Quiz クイズ

図書館サービスにおけるマイノリティの対象となるのは次のうちの
人たちが。

- a. 見えない、見えにくいなど視覚に障害のある人
- b. 聞こえない、聞こえにくいなど聴覚に障害のある人
- c. 本を持ったり、ページをめくることが困難な人
- d. 車イスや杖を利用していて、移動に困難を抱える人

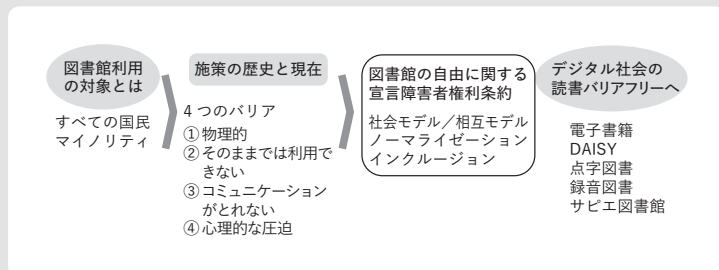
Outline 本章で学ぶこと

- ・ 障害者と呼ばれる人々がいる。“障害”とは何か，“障害者”とは誰かを、国際的な動向をふまえながら理解する。
- ・ 障害者への図書館サービスについて歴史的な流れを把握しつつ、図書館利用における図書館が抱える4つの障害とその対応策、今日の実践、社会的な動きを紹介すると同時に今後を展望する。

Answer クイズの答え

a.～d. すべて

Chapter structure 本章の構成



3章で紹介した「**図書館の自由に関する宣言**」（1954採択，1979改訂）は，冒頭で「図書館は，**基本的人権**のひとつとして**知る自由**をもつ国民に，資料と施設を提供することをもっとも重要な任務とする」と述べる。そのうえで，「すべての国民は，いつでもその必要とする資料を入手し利用する権利を有する。この権利を社会的に保障することは，すなわち知る自由を保障することである。図書館は，まさにこのことに責任を負う機関である」と明記し，図書館の自由に関する原則は，「すべての図書館に基本的に妥当するものである」と明言する。崇高な宣言であるが，‘すべて’の図書館は「すべての国民」の語が意味するところを認識しサービスを提供してきたであろうか。とりわけ**地域住民**に図書館サービスを無料で提供する**公共図書館**にはそれが問われる。この章では，図書館の利用の対象から認識されにくい人々の存在と図書館サービスについて，特に障害のある人々を中心に考えてみたい。

キャリア支援／ ビジネスと図書館

第

11

Chapter
章

就職・転職／起業を支援する

Quiz クイズ

アメリカの図書館で実際にあるサービスはどれか。

- a. AI でのおすすめ本紹介 b. 就職情報提供
c. ネクタイ、スーツの貸出 d. 医療サービス

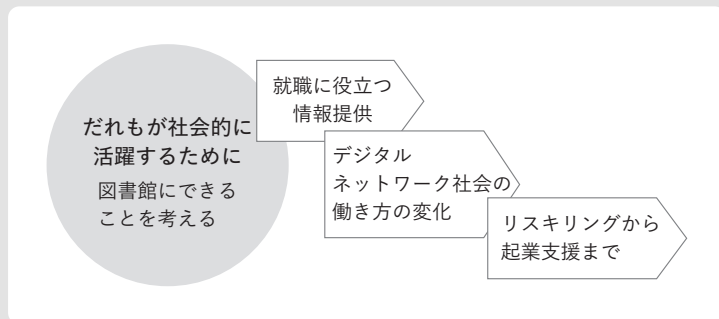
Outline 本章で学ぶこと

- ・アメリカにおけるホームレスの問題について、その社会的背景と公共図書館における支援の事例を通じて、今後の課題とサービスの展望を考える。
- ・アメリカにおける公共図書館の職業支援サービスに焦点をあて、求められるスキルと提供されるサービスについて考える。
- ・公共図書館が個人に必要なスキルの習得にどのような支援を提供できるかを考える。

Answer クイズの答え

a.～d. すべて実際にあるサービスである

Chapter structure 本章の構成



1

ホームレスと図書館

一敗地にまみれて立ち上がる

アメリカの**ホームレス**人口は過去 20 年間で大きな変動を経験している。アメリカ住宅都市開発省 (HUD) の統計によると、2007 年から 2016 年まで、ホームレス人口は全体的に減少していた。しかし、その後の 2016 年から 2020 年にかけて、ホームレス人口は再び増加に転じた。2020 年には、約 58 万人がホームレス状態にあった。COVID-19 パンデミックの影響で、ホームレスの数はさらに増加することが予想されたが、**アメリカ救済計画法** (American Rescue Plan Act of 2021) による大規模な資金投入がホームレスの急増を防いだ。しかし、2023 年 1 月には対前年比で 12% の増加を示

索引

●あ 行

アイオワ州公共図書館サービス基準
16
アーカイブ 32
アカデミック・ライティング 165
アカデミック・ライブラリアン 224,
230
アクセス保障 137
アドボカシー (政策提言) 243
アナログ文献 70
アメリカ救済計画法 172
アメリカ国立医学図書館 →NLM
アメリカ図書館協会 →ALA
アレクサンドリア図書館 25
アンジェリカ図書館 27
安全保障技術研究推進制度 223
石上宅嗣 25
市川沙央 148
イノベーション 66, 231
——の分類 232
居場所づくり 126
医療情報サービス 208
インクルーシブ (包括的) 156
インクルーシブネス (包摂性) 131,
138
インクルーシブ教育 139
インクルーシブ社会 (包摂的社会)
130
インターネット資料収集保存事業
(WARP) 62, 125
インディアナポリス公共図書館 197
ウィンチェル (Winchell, C. M.) 33

ウェイバックマシン →Wayback

Machine

ウェブ 61
ウェブアーカイビング 62
芸 亭 25
エキスパートシステム 95
エコーチェンパー 50, 156
遠隔教育 →オンライン教育
遠隔授業 →オンライン授業
横断検索 81, 92
大分県立図書館 213
大阪府立中之島図書館 177
オズボーン (Osborne, M. A.) 6
オープンサイエンス 225
オルデンバーグ (Oldenburg, R.) 124
オレンジプラン →認知症施策5か年
計画
オンライン教育 (遠隔教育) 111, 114,
115
オンライン授業 (遠隔授業) 115
オンライン診療 (支援サービス) 211,
212
オンライン蔵書目録検索システム
→OPAC

●か 行

会員制図書館 27
外国語図書 132
外国人利用者の特性・ニーズ 134
回収・交換・利用制限 47
科学技術・イノベーション基本計画
231

- 学習支援 157
- 学習資源 9
- 学習指導要領 60
- 学習スキル 160
- 学習スペース (ラーニングスペース) 175
- 学問の自由 107
- 貸出記録 48, 49
- 貸出・返却 90
- 課題解決 (支援) 35, 157, 160, 213
- 課題解決能力 158
- 学校教育 60, 154
- 学校教育法施行令 137
- 学校区図書館 28
- 学校司書 157, 158
- 学校図書館 24, 39, 60, 154
- 学校図書館ガイドライン 157
- 学校図書館法 52, 157
- カーツワイル (Kurzweil, R) 67
- 加藤梅吉 139
- カード目録 82
- カーネギー分類 224
- カピリア・アリバカ図書館 211
- カーリル 97
- 韓国研究財団学術情報 →KCI
- 韓国国立中央図書館 250
- 館 種 23
- 機械学習 96
- 議会図書館 109
- 起 業 181
- 岐阜市立図書館 179
- 基本件名標目表 →BSH
- 基本的人権 39, 52, 108, 136
- 教 育 107, 246, 251, 252
- 教育基本法 112
- 教育支援活動 126
- 教育令 30
- 「行政機関等匿名加工情報」に関する提
案の募集 51
- 競争的研究費制度 223
- 京都大学図書館蔵書検索 →KULINE
記 録 60
- 金融教育 →フィナンシャル・リテラ
シー教育
- クライマー事件 174
- クリネンバーグ (Klinenberg, E.) 125
- クローズドキャプション (CC) 228
- 経済格差 194
- 携帯電話貸出プログラム 174
- ゲーミフィケーション 126
- ゲーム 129
- 検 閲 39, 42
- 研究開発投資 222
- 研究支援サービス 252
- 研究データ管理 (RDM) 228
- 健康・医療情報の提供 205
- 健康無料相談会 213
- 検索 →資料検索; 蔵書検索
- 検索拡張生成 →RAG
- 憲 法 52
 - 25 条 41
 - 29 条 105
- 件名作業 74
- 件名標目 74, 80
- 件名法 71, 74
- 権利制限 107, 112
- 公教育 28
- 公共図書館 (パブリック・ライブラリー)
12, 24, 29, 39, 107, 120, 136, 139, 173,
237
- 公共の福祉 105
- 公共の利益 238
- 公衆衛生 209
- 公衆衛生看護師 →PHN
- 公衆送信 114
- 公正性 45
- 交流の場 125, 126
- 高齢者 125
- 高齢者, 障害者等の移動等の円滑化の促
進に関する法律 →バリアフリー法

- 国際障害者年 141
- 国際図書館連盟 →IFLA
- 国際標準逐次刊行物番号 →ISSN
- 国際標準図書番号 →ISBN
- 国防高等研究計画局 →DARPA
- 国民主権 41, 45
- 国立国会図書館 (NDL) 24, 62
- 国立国会図書館件名標目表 →NDLSH
- 国立国会図書館サーチ (NDL サーチ) 94
- 国立国会図書館分類法 →NDLC
- 国立図書館 24, 108
- 個人情報 48, 49, 51
- 個人蔵書 31
- 国家権力からの自由 39
- 国家権力の監視 45
- 個別資料 74
- コミュニケーションボード 143
- コミュニティ機能 35
- コンピュータ・リテラシー (リテラシー) 154
- さ 行
- 財産権 105
- サードプレイス 124
- サピエ図書館 145
- サブジェクト・ライブラリアン 199, 202
- 差分情報 →資料変動情報
- 差別的表現 47
- サラザール・アジヨ図書館 211
- サンフランシスコ公共図書館 173, 209
- シェア型図書館 200
- シェルターハウス 130
- 支援機関の紹介 209
- 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律 →読書バリアフリー法
- シカゴ公共図書館 175, 213, 216
- 識字能力 180
- 識字率 26, 28
- 資源の記述とアクセス →RDA
- 司書教諭 157
- 司書資格 8
- 思想善導 39
- 持続可能な開発目標 →SDGs
- 実感型図書館事業 250
- 指定管理者制度 7, 16
- シプル分館 →SIBL
- 支分権 105
- 社会課題 238
- 社会教育機関 15
- 社会的インフラ 125, 174
- 社会的孤立 125
- 社会的弱者 174
- 社会的正義 43, 238
- 社会的包摂 (ソーシャル・インクルージョン) 155
- 社会福祉サービス 173
- 社会モデル 137, 142
- 就職支援プログラム 174
- 自由宣言 →図書館の自由
- 住民参加 242
- 授業目的公衆送信補償金制度 112, 113, 115
- 生涯学習 112, 179
- 者 154
- 障害者 137
- 障害者基本法 137
- 障害者権利条約 (障害者の権利に関する条約) 137, 145
- 障害者雇用促進法 137
- 障害者サービス 140
- 障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律) 137, 145
- 障害者の権利宣言 141
- 障害者の権利に関する条約 →障害者権利条約
- 障害を理由とする差別の解消の推進に関

- する法律 →障害者差別解消法
- 消費者保護 190
- 情報 32, 57, 58, 70
 - 収集 60-62, 154
 - 生産 63
 - 提供 209
 - の消失・散逸 61
 - の組織化 (IO: 情報組織化) 71
 - の流通・活用 61
 - へのアクセス 32, 238
- 情報格差 (デジタルデバイド) 173, 180, 189
- 情報活用能力 (リテラシー) 60
 - の育成 157
- 情報サービス 56
- 情報支援 123
- 情報資源 (図書館情報資源) 5, 32, 56, 71
- 情報政策 238
- 情報センター機能 121
- 情報組織化 →情報 (の組織化)
- 情報通信技術 →ICT
- 情報リテラシー (リテラシー) 153, 155
- 書架 77
- 書誌 72
- 書誌コントロール 71, 80
- 書誌情報 80, 82
- 書誌データ (目録データ) 72, 90
- 書誌データベース (目録データベース) 72, 81
- 書誌レコード 72
 - の機能要件 →FRBR
- 書籍館 30
- 調べ学習 160
- 資料 (図書館資料) 5
 - 収集 43
 - 提供 47
- 資料検索 72, 166
- 資料変動情報 (差分情報) 93
- 知る自由 (知的自由) 39, 40, 107, 136
- シンギュラリティ 67
- 人権 155
- 人工知能 →AI
- 新宿区立大久保図書館 134
- 深層学習 →ディープラーニング
- 身体障害者福祉法 140
- 心理カウンセラー 215
- 推薦図書 160
- スタートアップ 183
- スタブロス・ニアルコス財団図書館 →SNFL
- スパータンバーク公共図書館 130
- スモドレー (Smedley, L. B.) 87
- スモールビジネス 183
- 生活困窮者 129
- 生活支援 123
- 生活の質 192
- 正誤表 45
- 生存権 41
- 世界人権宣言 108
- 絶版 47, 109
- 戦争 42
- セント・ポール公共図書館 244
- 専門図書館 24
- 総合的な学習の時間 158
- 総合目録 →目録
- 蔵書検索 83, 97
- 蔵書点検 90
- 蔵書目録 →目録
- 蔵書目録検索システム →OPAC
- 創造の循環 103
- ソーシャル・インクルージョン →社会的包摂
- ソーシャル・ライブラリー 27, 31
- ソーシャルワーカー 173, 209
- た行
- 大学図書館 24, 225
- 大学図書館職員 224

- 大学図書館振興総合計画 251
- 大学図書館振興法 246, 247
- 体現形 74
- 対面朗読サービス 141
- タイラブリリープログラム 176
- 他者との社会的接点 125
- 脱施設化 138
- ダブリンコア (メタデータ記述) →DC-NDL
- 多文化サービス 131
 - ツール 133
- 多文化社会 131
- 多様性 131, 155
- 探究 (学習) 158, 160
- 地域産業 179
- 地域社会 121, 123, 138, 173, 174
- 地域住民 136
- 地域情報資源 32
- 地域図書館 89
- 蓄 積 60
- 知識共有スペース 121
- 知識へのアクセス 121
- 知的財産権 (制度) 103
- 知的自由 →知る自由
- 著 作 73
- 著作権 (著作財産権) 99, 102, 105
 - の制限 105
- 著作権条約 →WIPO 著作権条約
- 著作権処理 105
- 著作権侵害 103
- 著作権法 102, 103, 113
- 著作財産権 →著作権
- 著作物 103
- デジジャー →DAISY
- ディープフェイク 66
- ディープラーニング (深層学習) 96
- テクニカルサービス 90
- デジタルアーカイブ 109
- デジタルオブジェクト識別子 →DOI
- デジタル技術習得拠点 88
- デジタルコンテンツ 70
- デジタル・シティズンシップ 152
- デジタル・シティズンシップ教育 156
- デジタル情報 61
- デジタル情報活用プログラム 252
- デジタルタトゥー 61
- デジタルデバインド →情報格差
- デジタルトランスフォーメーション →DX
- デジタルミレニアム著作権法 (DMCA) 115
- デジタル・ライブラリー (電子図書館) 145, 225
- デジタル・リテラシー (リテラシー) 154, 155
- データマイニング 67
- デューイ (Dewey, M.) 78
- デューイ十進分類法 →DDC
- 点字閲覧室 139
- 電子ジャーナル 225
- 電子書籍 →ebook
- 電子図書館 →デジタル・ライブラリー
- 東京書籍館 30
- 東京市立本郷図書館 139
- 東京都立中央図書館 177
- 統合検索 92
- 闘病記文庫 206
- 盗用・剽窃 103
- 読 書 26, 47
- 読書端末 147
- 読書バリアフリー施策 148
- 読書バリアフリー法 (視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律) 145
- 特定図書館 109
- 特別支援学校 139
- 匿名加工情報 51
- 都市図書館評議会 →ULC
- 図書館 4, 22, 239
- 図書館委員会 15, 242

図書館界の憲法 52
 図書館看護師 →ライブラリー・ナース
 図書館間相互貸借 →ILL
 図書館機能 107
 図書館協議会 15, 16, 18, 242
 図書館財団 244
 図書館サービス 237
 図書館サービス・技術法 →LSTA
 図書館サービス・建設法 →LSCA
 図書館サービス法 →LSA
 図書館情報資源 →情報資源
 図書館資料 →資料
 図書館政策 126, 237
 『図書館戦争』 52
 図書館等公衆送信補償金制度 110
 図書館の権利宣言 39
 図書館の自由（図書館の自由に関する宣言：自由宣言） 39, 40, 42, 47, 52, 98, 136
 図書館の自由に関する宣言 →図書館の自由
 図書館発展総合計画 248
 図書館評議会 →図書館理事会
 図書館法 15, 52, 246
 図書館理事会（アメリカ図書館評議会） 15
 図書館利用者教育 154, 160
 図書館令 30
 図書館連合 244
 図書の館 50
 図書分類法 82
 ドーズ（Dawes, T. A.） 229
 トーマス・ヨセロフ・ビジネスセンター 196
 友の会 243
 都立日比谷図書館 140
 ●な 行
 新潟県立図書館 139
 日本十進分類法 →NDC

日本目録規則 →NCR
 入手困難資料 109
 ニューヨーク公共図書館 176, 178, 180, 196
 『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』 236
 ニューラルネットワーク 96
 認知症カフェ 216
 認知症施策5か年計画（オレンジプラン） 216
 ネット貸出サービス 176
 ネット環境の利用 124
 ノーマライゼーション 138
 ●は 行
 博物館 239
 博物館・図書館サービス（振興）機構 →IMLS
 博物館・図書館サービス法 239
 場所としての図書館 121, 124
 パスファインダー 206
 パブリックサービス 90
 『パブリック 図書館の奇跡』 129, 174
 パブリック・ドメイン 104
 パブリック・ライブラリー →公共図書館
 ハーベスティング 94
 バリアフリー法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律） 143
 ハルシネーション 66
 頒布 106
 非個人情報 51
 ビジネス支援（サービス） 177, 196
 非正規雇用 7, 127, 182
 ビッグデータ 51
 ひと・まち・情報創造館武蔵野プレイス 126
 批判的思考 60

ビマ・カウンティ公共図書館 209,
 211
 ヒューストン大学 228
 ビューリサーチセンター 123, 126
 表 現 104
 表現形 73
 表現の自由 107
 貧 困 208
 ファクトチェック 110, 153
 フィナンシャル・リテラシー (リテラ
 シー) 189, 192
 フィナンシャル・リテラシー教育 (金融
 教育) 192, 194, 195
 フィラデルフィア公共図書館 176
 フィラデルフィア図書館会社 27
 フィルターバブル 49, 156
 フェアユース 105, 106
 フェイクニュース 58
 フェローシッププログラム 228
 福井市図書館 197
 複 製 106
 ——サービス 108, 110
 ブックディテクションシステム →BDS
 ブックリスト 207
 フードドライブ活動 130
 プライバシー 48, 51, 99
 ブレークスルー研究 223
 プロトコル 94
 文 化 107
 ——活動 246
 ——の発展 103
 文化・言語の多様性 131
 文 献 72
 分類記号 76, 80
 分類作業 76
 分類法 71, 76
 平 和 107
 ベルヌ条約 104
 包括的 →インクルーシブ
 包摂性 →インクルーシブネス

包摂的社会 →インクルーシブ社会
 ボストン・アシニアム 27
 ボストン公共図書館 29
 ポッツボロ地域図書館 211
 ポトニス (Potnis, D.) 231
 ホームレス (路上生活者) 41, 129,
 172, 208

 ●ま 行
 まちライブラリー 201
 ミネソタ大学 228
 民主主義 (社会) 41, 45, 98, 134, 155
 無許諾の複製 108
 無償の教育支援 126
 無線周波数識別 →RFID
 無体財産 (権) 104
 メイカースペース →ライブラリー・メ
 イカースペース
 メタデータ 71, 79, 93
 ——スキーマ 80
 ——標準 93
 メディア情報リテラシー (MIL; リテラ
 シー) 59, 153, 155
 メディア・リテラシー (リテラシー)
 153, 155
 メディカル・ライブラリアン 209
 メディケア 207
 メディケイド 207
 目録 (総合目録: 蔵書目録) 72, 81,
 82, 178
 ——規則 82
 目録作業 (目録作成) 64, 72
 目録データ →書誌データ
 目録法 71, 80
 ものづくりスペース 86

 ●や 行
 山中樵 140
 有料制規定 30
 ユーザーエクスペリエンス →UX

ユネスコ公共図書館宣言 120
4つのバリア 142

●ら 行

ライブラリー・スキーマ 227
ライブラリー・ナース (図書館看護師)
208, 210
ライブラリー・メイカースペース (メイ
カースペース) 86, 175
ラスベガス・クラーク郡図書館区 173
ラーニングコモンズ 84, 225
ラーニングスペース →学習スペース
ランガナタン (Ranganathan, S. R.)
5, 10
リスクリング 175
リテラシー →コンピュータ・リテラ
シー; 情報活用能力; 情報リテラ
シー; デジタル・リテラシー; フィ
ナンシャル・リテラシー; メディア
情報リテラシー
リバーサイド図書館 176
利用者 5
——ニーズ 121
——の秘密 48
利用目的 122
リレーショナルデータベース 93
臨床心理士 213
レコメンドサービス 49
レファレンス (サービス) 32, 160, 194
連邦著作権法 106
録音図書 141, 144
路上生活者 →ホームレス

●わ 行

若手研究者の育成 223

●アルファベット

AI (人工知能) 6, 63, 95, 153
記述的—— 99
生成—— 63, 153, 159

AI に対する図書館の戦略的対応に関す
る作業文書 96

AI リテラシー 65, 99

ALA (アメリカ図書館協会) 39, 112

BDS (ブックディテクションシステム)
91

BSH (基本件名標目表) 75, 80

CC →クローズドキャプション

CILIP 9

CIP 64

DAISY (デージー) 144

DARPA (国防高等研究計画局) 222

DC-NDL (ダブリンコア [メタデータ記
述]) 64, 80, 93

dCollection 252

DDC (デュイ十進分類法) 78

DMCA →デジタルミレニアム著作権法

DOI (デジタルオブジェクト識別子)
80

DX (デジタルトランスフォーメーショ
ン) 178, 226, 251

ebook (電子書籍) 145, 146

FRBR (書誌レコードの機能要件) 81

IC タグ 90

ICFT 89

ICT (情報通信技術) 56

IFLA (国際図書館連盟) 81, 96, 121

IFLA-UNESCO 公共図書館宣言 107,
121

IFLA-UNESCO 多文化図書館宣言
131

ILL (図書館間相互貸借) 95

IMLS (博物館・図書館サービス振興機
構) 239

IO →情報の組織化

ISBN (国際標準図書番号) 80

ISSN (国際標準逐次刊行物番号) 80

IT ガイ 178

Job Search Central 176

KCI (韓国研究財団学術情報) 252

KERIS	251	RDF	80
KULINE (京都大学図書館蔵書検索)		RDM	→研究データ管理
83		RFID (無線周波数識別)	91
LSA (図書館サービス法)	237, 240	SCORE Mentors	183
LSCA (図書館サービス・建設法)	240	SDGs (持続可能な開発目標)	130,
LSTA (図書館サービス・技術法)	239	156	
MARCXML	80	SIBL (シブル分館)	183
MIL	→メディア情報リテラシー	SNFL (スタブロス・ニアルコス財団図	
Minnesota Institute	230	書館)	196
MODS	93	SNS	125
NCR (日本目録規則)	72, 80, 84	STEAM 教育	88
NDC (日本十進分類法)	76, 80	STEM 教育	87
NDL	→国立国会図書館	TEACH Act	111, 115
NDLC (国立国会図書館分類法)	83	ULC (都市図書館評議会)	232
NDLSH (国立国会図書館件名標目表)		UREKA	252
75, 80		UX (ユーザーエクスペリエンス)	178
NLM (アメリカ国立医学図書館)	212	WARP	→インターネット資料収集保存
OAI-PMH	94	事業	
OPAC (オンライン蔵書目録検索システ		Wayback Machine (ウェイバックマシ	
ム)	72, 77, 92, 178	ン)	62
PHN (公衆衛生看護師)	209	WIPO 著作権条約	115
RAG (検索拡張生成)	97	YOU media	175
RDA (資源の記述とアクセス)	81		

【y-knot】

これからの図書館情報学——人工知能と共生する図書館

New Perspectives for Library and Information Science

2025 年 5 月 30 日 初版第 1 刷発行

編 者 山本順一・前川和子・松戸宏予

発行者 江草貞治

発行所 株式会社有斐閣

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17

<https://www.yuhikaku.co.jp/>

装 丁 高野美緒子

印 刷 株式会社精興社

製 本 牧製本印刷株式会社

装丁印刷 株式会社享有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。定価はカバーに表示しています。

©2025, Junichi YAMAMOTO, Kazuko MAEKAWA, Hiroyo MATSUDO.

Printed in Japan. ISBN 978-4-641-20017-3

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。



本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。